



TAKASHI SUZUKI KAWAHAGI FISHING TECHNIQUE SNIPER'S METHOD

●鈴木孝のスナイパーズメソッド 最終回

スナイパー釣法と内房富浦沖釣行

★約4年間続いた本連載は今回が最後となりました。スナイパー釣法の解説をメインに、ステファノー製品紹介、関東各地のカワハギ釣り場攻略、そしてスナイパー釣法を応用したフグ、マルイカなどの釣りも紹介してきました。まだまだ言い足りないことは山ほどありますが、次のステップを目指していったん幕を引かせていただきます。

▲大きく体をのけぞらして合わせるのもスナイパー釣法の特徴

解説●鈴木 孝

本連載のスタートは2016年でした。それまで、どちらかといえばマイナーだったスナイパー釣法でしたが、今では船に乗りれば必ず見かけるほどとなりました。これからもカワハギ最強釣法として、微力ながら強くアピールしていくつもりです。

スナイパー釣法の利点

- ①上下の誘い幅を稼げるⅡ両手で竿を持ち、竿を海面と平行に構えるスナイパー持ちは、竿全体を上下にスライドさせることで、誘いの幅が広がります。ウネリがあるときでも穂先がブレ
- ②感度を高めるⅡ視線の真正面に穂先を保つので、目感度が上がります。さらに利き手をリリースして、もう一方の腕の手にリアグリップを置くことで、これまで以上に手感度を高めることができます。
- ③疲労の軽減Ⅱ両手持ち、リリースの位置を支点としたテコの原理を応用することで、長時間の釣りでも疲労を抑えてくれます。女性や子ども、非力な方にもおすすめる釣りの方といえるでしょう。
- ④的確な誘いが可能Ⅱ肘の曲げ伸ばしと上下の動きを組み合わせて、誘い上げ、誘い下げ、揺さぶり、タルマセ、ゼロテン

▲この日は数型ともに大満足の日だった



▲ステファノー攻H177SPで一日を通すことに



▲乗船者10人でゆったりと

KAWAHAGI FISHING TECHNIQUE SNIPER'S METHOD

シヨンなど様々な誘いを的確に行えます。

なども判断しやすくなります。以上がスナイパー釣法のメリットです。そしてこの釣りをサポートするのがシマノの「ステファノー」タックルです。竿にしるルールにしる、スナイパー釣法には最適なタックルです。これから本格的にカワハギ釣

⑤その他Ⅱ両手持ちの特徴から電撃合わせを抑制でき、そのときに合致した合わせ時を判断しやすくなります。また、パワー、感度、調子、操作性など、竿本来が持つ特性、素材による違い

なども判断しやすくなります。以上がスナイパー釣法のメリットです。そしてこの釣りをサポートするのがシマノの「ステファノー」タックルです。竿にしるルールにしる、スナイパー釣法には最適なタックルです。これから本格的にカワハギ釣



▲中盤からは入れ食い状態に

連載終了にあたって

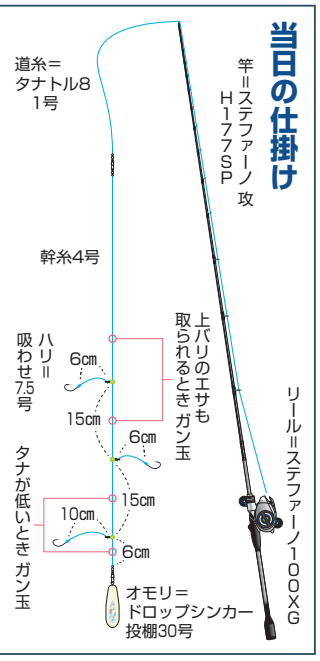
4年間にわたり、連載させていただいた「スナイパーズメソッド」も今回で終了です。振り返れば連載取材で色々なカワハギ釣り場に出向き、スナイパー釣法でパターンを見出しつつ自分自身の引き出しも増やし、「カワハギ釣りを細分化して考える」ことができるようになりました。

とともに連載で紹介したアイテム、ハリ、仕掛け、集寄、中オモリなどスナイパー釣法での使用方法、理論～結果、そしてこの4年間で発売されたステファノー5種類の竿の特長や使い分けなどが読者の皆様にも少しは伝わったのではないかと考えています。

本連載は終了しますが、スナイパー釣法はまだ進化していきます。またこのような機会をいただければ、いつでも協力する所存です。長い間のご愛読、ありがとうございました。 鈴木 孝



▲大房岬周辺のポイントには数かずの思い出が



当日の仕掛け



▲20センチ前後と型もまずまず

思い出の地、内房富浦沖

本連載を締めくくるにあたり、なんとしても訪れたかったのが内房富浦沖の釣り場です。ここは常宿だった那古船形のくろしお丸（現在は廃業）で、私自身がスナイパー釣法を熟成させた



▲この時期に27枚なら上出来

地でもあるからです。乗船したのは内房勝山港の萬栄丸。地元勝山沖にも好ポイントが点在しますが、この時期は富浦沖がメインとなります。まずは18メートルダチからのスタートでした。連載最後ということもあり、今回はスナイパー釣法に最適な竿「ステファノー攻H177SP」を使用します。富浦沖の象徴ともいえる大房岬周辺は水深10メートルから50メートル前後の深場まで、根あり砂地ありの変化に富んだポイントですが、宙でアタるのは少なく、ほとんど底狙いとなります。

前日はトップで11枚という食い漁りでしたが、この日は潮の流れがよかったのか開始からポツポツと釣れ上がり、2時間ほど早くもツ抜け。中盤からさらに活性が上がリ、一時は1投1枚の入れ食いもあり、終わってみれば27枚の好釣果でした。型もワッペンには交じらず、20センチ前後の良型中心。締めくくりにしては最高の釣りを楽しめました。

